

能登半島地震における 「道の駅」の対応について

国土交通省 道路局
企画課 評価室
令和6年4月

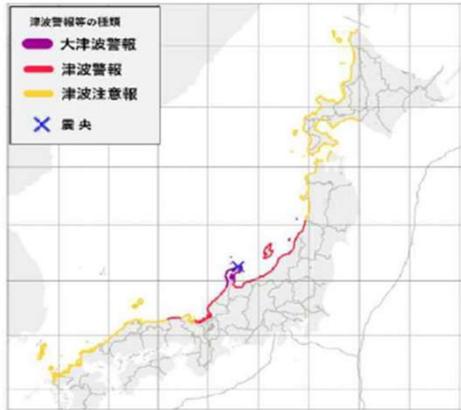
1. 能登半島地震の概要と緊急復旧の取組	・・・3
2. 「道の駅」の状況と役割	・・・11
(1) 防災道の駅の取組	・・・14
(2) 拠点としての活用	・・・21
(3) 広がる「道の駅」の連携	・・・26
3. 可動式コンテナの運用	・・・28

1. 能登半島地震の概要と緊急復旧の取組

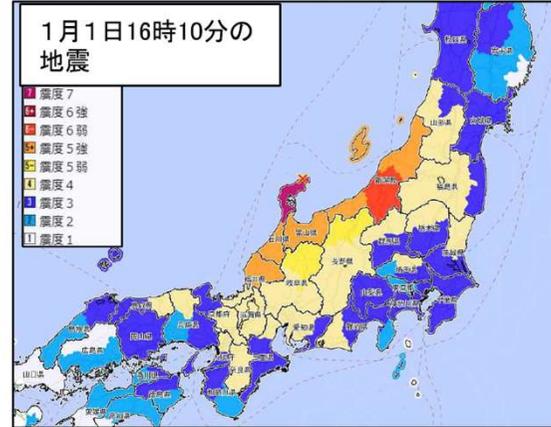
- 2024年1月1日16時10分にマグニチュード7.6、深さ16kmの地震が発生し、石川県志賀町(しかまち)で震度7を観測したほか、北海道から九州地方にかけて震度6強～1を観測。
- 石川県能登に対して大津波警報を、山形県から兵庫県北部を中心に津波警報を発表。輪島港で1.2m以上、富山で0.8mなど各地で津波を観測。その後、発表していた津波注意報は、2日10時00分に全て解除

■津波警報等発表状況

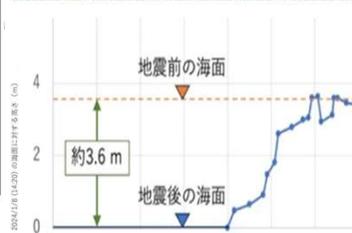
1月1日16時22分発表



■震度分布図・推計震度分布図

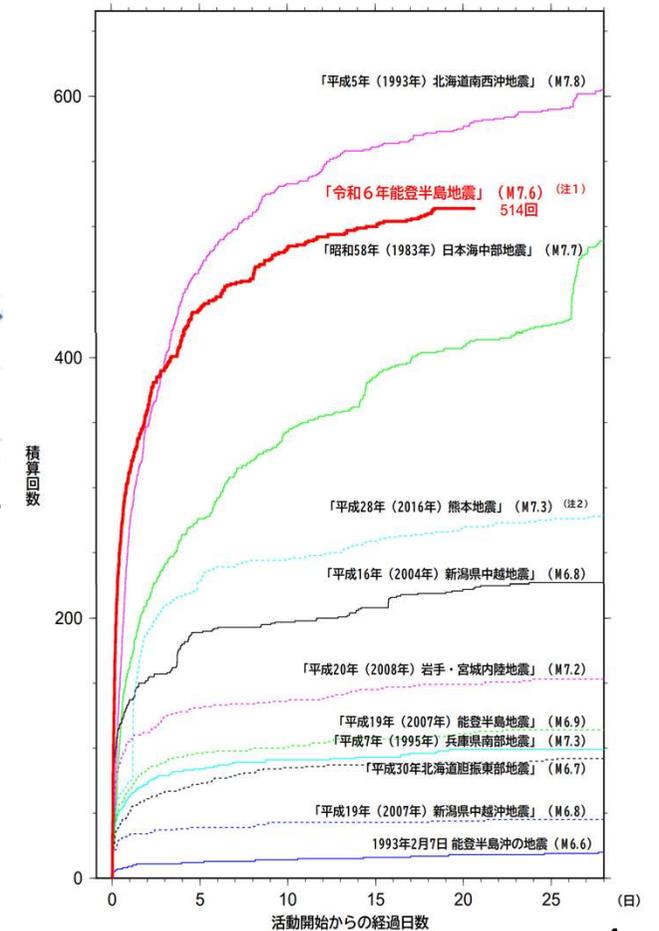


隆起で離水した波食棚 (輪島市門前町鹿磯漁港北)



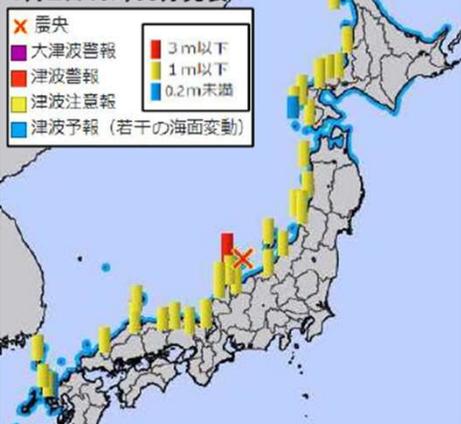
産総研地質調査総合センターHP

陸のプレートでの主な地震活動の地震回数比較 (マグニチュード3.5以上) (回) 2024年01月22日09時00分現在

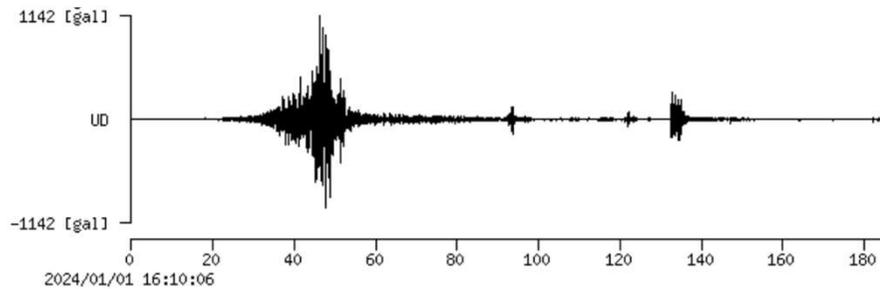


■津波の観測状況

1月2日10時03分発表



■富来観測点の強震波形



※この資料は速報値であり、後日の調査で変更することがある。
 ※今回の地震のマグニチュードについては、これまでの最大を示している。
 (注1) 2024年1月1日16時10分 (M7.6) の地震を起算点にカウントしている。
 (注2) 2016年4月14日21時26分 (M6.5) の地震を起算点にカウントしている。

国道249号法面崩落(珠洲市・道の駅「すず塩田村」付近)



R6.1.2 時点

国道249号大谷ループ橋(珠洲市)



R6.1.8 時点

国道249号(道の駅「千枚田ポケットパーク」付近)



R6.1.14 時点

国道249号大谷トンネル(珠洲市)



R6.1.6 時点

< 孤立集落の解消に向け、県・自衛隊と連携し、陸・海・空からくしの歯状の緊急復旧を以下の手順で実施 >

- 1/2 七尾市から、輪島市役所、珠洲市役所、能登町役場まで普通車での通行を確保
- 1/4 輪島市役所、珠洲市役所、能登町役場まで大型車が通行可能となり、縦軸・横軸ラインを確保
- 1/8 「くしの歯」の「歯」になる幹線道路の緊急復旧を継続し、能登半島内陸及び海側から7ルートを確認
- 1/15 日本海側へ9ルートを確認し、緊急復旧を加速。国道249号等半島内の主要な幹線道路の約9割で緊急復旧完了



発災後3日で縦軸・横軸ラインを確保

1/9に主要な幹線道路の約8割、
1/15に約9割の緊急復旧が完了

○緊急復旧(道路啓開)作業の様子



県道1号 輪島市三井町での啓開作業(1月3日撮影)



深見海岸 海側からの重機運搬(1月14日撮影)



陸路から到達できない地点の被災状況調査





令和6年能登半島地震 能登半島 道路の緊急復旧の状況

令和6年4月16日(火)7時00分時点
国土交通省・石川県

- 1/2から幹線道路の緊急復旧に着手。24時間体制を構築し、地元を中心とした各建設業協会や(一社)日本建設業連合会の応援を受け、緊急復旧作業を順次実施。
- 沿岸部では被災箇所が多数確認されているため、自衛隊と連携し、内陸側・海側の両方からくしの歯状の緊急復旧も進めており、13方向で通路を確保。
- 孤立集落は1/19に実質的に解消。引き続き、水道・電力などの要望、自治体の要請を踏まえ、緊急復旧を実施。

主要な幹線道路における緊急復旧の進捗率

	1/7 7時	現在
半島内の 主要な幹線道路	約6割 →	約9割
うち国道249号 沿岸部※1	約2割 →	約8割 (迂回路を考慮:約9割)
沿岸部への到達 ※2	6方向 →	13方向

※1: 輪島市門前町～珠洲市役所、※2: 内陸側・海側の両方

孤立地区数の推移※3

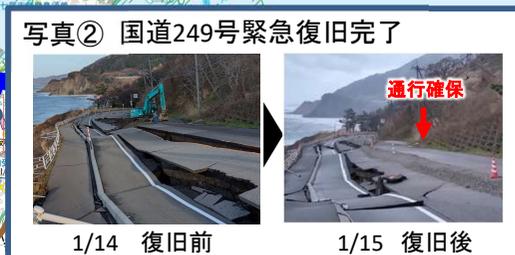
1月5日8時	33地区 (最大3,345人)
1月19日	実質的に解消 ※4

※3: 内閣府防災資料より
※4: 2/13に全て解消

生活インフラ復旧に必要な重要箇所の緊急復旧状況※5

優先復旧の要望数	43箇所
うち完了数	42箇所(約9割)

※5: 水道、電力、通信、放送事業者より聞き取り



- ### 凡例
- 青線: 国交省対応(走行可能)
 - 茶線: 県対応(走行可能・この他にも作業を実施)
 - 緑線: 自衛隊対応(走行可能)
 - 赤線: 自動車専用道路(走行可能)
 - 赤×: 被災規模 大(本復旧で対応)
 - 黄×: 沿岸部への到達点
- 一般道

令和6年能登半島地震 直轄権限代行による本格復旧の取組

- 1/14 総理大臣の指示を受け、権限代行に関する手続きに着手
- 1/23 国が石川県に代わり国道249号沿岸部延長53kmおよび能越自動車道のうち延長38kmについて本格的な災害復旧を代行することを決定
- 2/16 北陸地方整備局に能登復興事務所を設置
- 2/21 社会資本整備審議会道路技術小委員会において、復旧方針の検討を開始
- 3/26 社会資本整備審議会道路技術小委員会において、道路構造物の技術基準の方向性を公表



能登復興事務所開所式の様子(北陸地方整備局Xより)

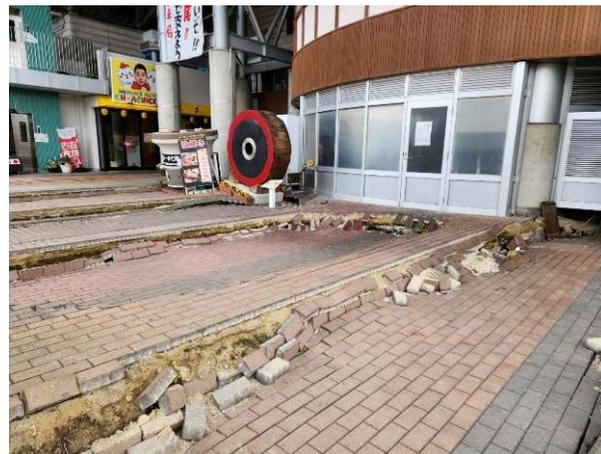
権限代行とは、国土交通大臣が指定区間外の一般国道の新設・改築及び災害復旧に関する工事を行う場合に、その区間について、本来の道路管理者(都道府県又は指定市)に代わってその権限を行うことです。

2. 「道の駅」の状況と役割

能登半島地震後における石川県内の「道の駅」の状況



【道の駅「能登食祭市場」】



【道の駅「輪島」】



【道の駅「千枚田ポケットパーク」】



【道の駅「あなみず」】



【道の駅「すずなり」】



(1) 防災道の駅の取組

新「道の駅」のあり方検討会 提言 (令和元年11月18日)

**「道の駅」第3ステージ
(2020年～2025年)**
《地方創生・観光を加速する拠点》



「2025年」に目指す3つの姿

1. 「道の駅」を世界ブランドへ

- 多言語対応やキャッシュレスの導入
- 海外や観光関係団体との連携



2. 新「防災道の駅」が全国の安心拠点に

- 広域防災
「防災道の駅」の選定・支援
- 地域防災
BCPの策定を促進



3. あらゆる世代が活躍する舞台となる 地域センターに

- 子育て応援
- 地域活性化プロジェクト
- 大学等の連携企画の実施



「防災道の駅」制度

都道府県の地域防災計画等で、**広域的な防災拠点に位置づけられている道の駅**について、「**防災道の駅**」として選定し、防災拠点としての役割を果たすための**重点的な支援を実施**

広域的な防災拠点機能 を持つ道の駅

- ・自衛隊、警察、テックフォース等の救援活動の拠点
- ・緊急物資等の基地機能
- ・復旧・復興活動の拠点等

地域の防災拠点機能 を持つ道の駅

- ・地域の一時避難所等

その他の道の駅

重点的な支援

(最大5年)

ハード面

- ・防災機能の整備・強化を交付金で重点支援

ソフト面

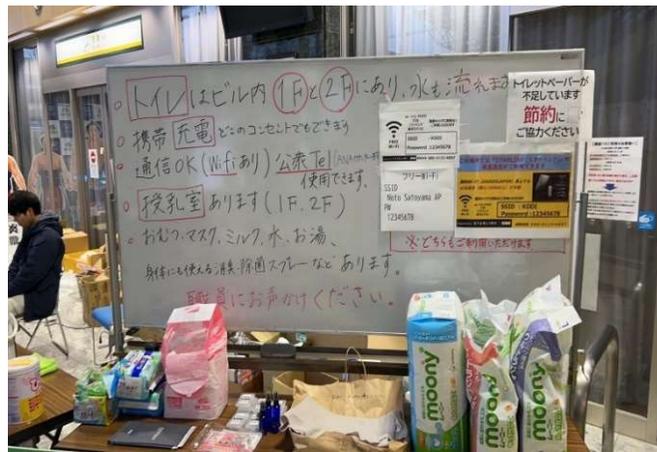
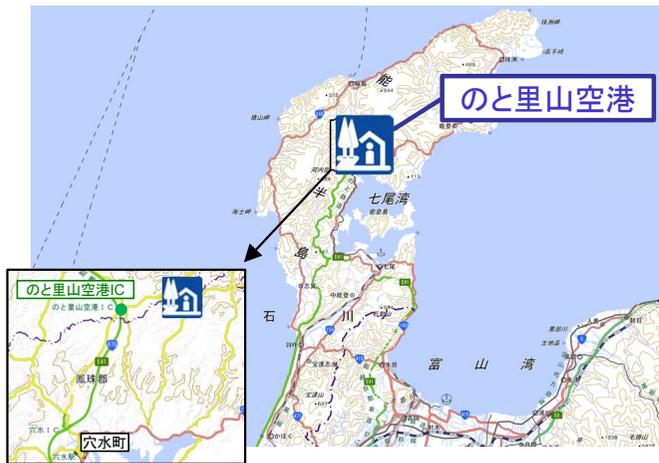
- ・BCPの策定や防災訓練について国のノウハウを活用した支援



広域的な防災拠点 (イメージ)

令和3年に**全国で39駅を選定**

- 防災道の駅に選定されている「のと里山空港」(石川県輪島市)では、発災直後より避難者へ水や毛布などの備蓄品を提供
- その後、支援物資の集配拠点や道路啓開活動の拠点となる「道路啓開支援センター」として活用されるなど、広域防災拠点としての機能を発揮



支援物資の提供



支援物資の集配拠点



支援物資の運搬



災害対応車両の集結



災害対応の拠点

- 令和6年1月6日(土)に設置
- 職員が常駐し、現地の活動を支援
- 北陸地整以外からも災害対策用車両が集結

位置図



対策本部車、待機支援車 現地設営状況



道路啓開支援センター 活動拠点整備状況
(砂利を敷均し)



照明車の待機状況



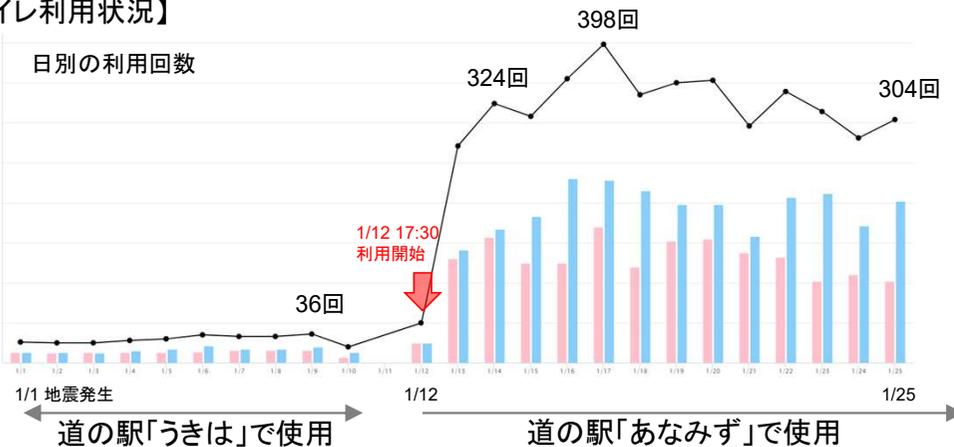
- 停電や断水時でも使用可能な防災コンテナ型トイレを、防災道の駅「うきは」(福岡県うきは市)より、幹線道路である国道249号近傍の道の駅「あなみず」へ派遣
- 設置後、一日あたり300回程度利用されており、道の駅「うきは」における利用の約10倍
- 道の駅「あなみず」のトイレ復旧に伴い、ポケットパーク海岸棧敷のと七見に移設し、現在も活用



■防災用コンテナ型トイレの特徴

- 災害時に移動して使えるコンテナ型の水洗トイレ
(平常時は、道の駅「うきは」に設置)
- 太陽光発電装置を搭載し、商用電源への接続が不要
- 浄化システムを搭載し、上水道・下水道への接続、汲み取りが不要
- 停電、断水中でも使用可能**

【トイレ利用状況】



- リレー防災セミナー(主催:NPO人と道研究会 後援:国土交通省)の活動を通じて結びついた各駅が連携して被災地の道の駅支援を実施
- にいがた下越駅長交流会や全国「道の駅」女性駅長会が中心になり、各駅の備蓄品を防災道の駅「あらい」(新潟県妙高市)に集積し、被災地の道の駅「のと里山空港」へ輸送

防災道の駅の位置関係



道の駅「あらい」に集積した支援物資の積み込み(1/8)



第10回 リレー防災セミナーin妙高(10月15日 道の駅あらい)

道の駅「のと里山空港」に届けられた支援物資

- 日時: 令和5年10月15日(日) 10:00~12:00
- 場所: 道の駅「あらい」
- 主催: 道の駅「あらい」、NPO人と道研究会
共催: 妙高市
- 基調講演: 「道の駅を核にした医療・教育・防災の広域連携」
/アジア航測(株)
- 講演: 「道の駅の防災に関する取り組み」
/国土交通省道路局企画課評価室
- パネルディスカッション: 「自助・共助・公助と地域連携について」



主な支援物資: 水(ペットボトル)、非常食、トイレトペーパー、おむつ・生理用品、マスク、タオル、など

(2) 拠点としての活用

- 国道249号の北岸区間は大規模な崩落等の発生で各所で道路が寸断
- 陸側から到達できない区域の道路啓開活動を進めるため、道の駅「千枚田ポケットパーク」の駐車場をヘリポートとして利用し、現地調査や物資供給の拠点として活用
- 全国で初めて防災拠点自動車駐車場の利用制限を行い、制限区域内を重機の駐車スペース等に活用し、北陸地方整備局が権限代行を行う国道249号の道路復旧作業に活用



利用の禁止・制限の際に設ける標識



【防災拠点自動車駐車場とは】

災害時において、広域的な災害応急対策を迅速に実施するための拠点を確保することが重要であることを踏まえ、地域防災計画等に位置づけられた「道の駅」や高速道路のサービスエリア・パーキングエリアの自動車駐車場を「防災拠点自動車駐車場」として指定。

道の駅「千枚田ポケットパーク」は、令和4年3月に防災拠点自動車駐車場として指定。

- 被災地における休業中の道の駅の敷地を活用し、各団体による支援活動が展開
- 道の駅「赤神」では、自衛隊が被災住民に入浴環境を提供、道の駅「すずなり」では、日本赤十字社や公益社団法人広島県薬剤師会が臨時医療施設を開設



道の駅「赤神」



入浴施設案内



自衛隊による入浴環境の提供

道の駅「すずなり」



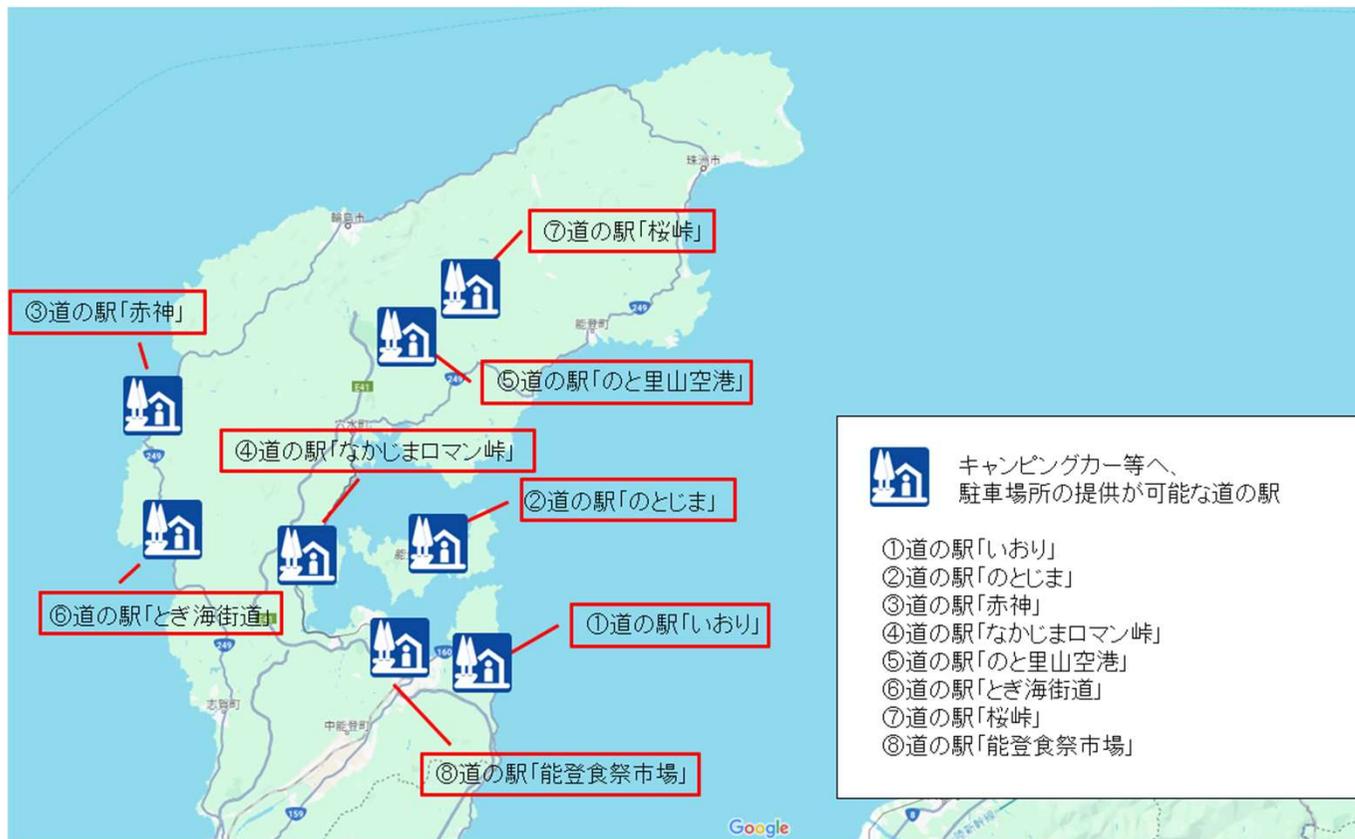
臨時医療施設(日本赤十字社)



医療支援車両((公社)広島県薬剤師会)

○復旧工事従事者の多くは、金沢市等の比較的遠方に宿泊し移動に時間を要している現状。
 ○また、移動時間を削減するため、現場近傍で工事用車両に寝泊まりして対応する事業者も存在。
 ○宿泊対策として、現地のホテル・民宿等や、仮設宿泊用設備(コンテナ等)を活用することに加え、「道の駅」等の駐車スペースへキャンピングカー等が停泊し、快適な宿泊場所が確保できるよう、活用可能な「道の駅」を業界団体へ情報提供。

宿泊スペースとして駐車場を利用可能な「道の駅」(令和6年3月18日時点)



復旧工事従事者の車中泊の従前状況



「道の駅」への停泊状況
(道の駅「輪島」)

緊急復旧済み区間 令和6年2月28日時点

- 国交省対応 (走行可能)
- 県対応 (走行可能・この他にも作業を実施)
- 自衛隊対応 (走行可能)
- (参考)のと里山海道・能越道 通行止め区間
- (参考)のと里山海道 一般車両通行止め区間

千枚田ポケットパーク

- ・駐車場を啓開活動のためのヘリ着陸場として利用
- ・防災拠点自動車駐車場として、全国初の利用制限を実施(2/26)

すず塩田村



狼煙



すずなり

- ・臨時医療施設、電力復旧拠点



赤神

- ・自衛隊が入浴環境を提供



輪島

- ・駐車場を宿泊場所として利用

桜峠

- ・自衛隊が休憩場所として利用

のと里山空港 ※防災道の駅

- ・国交省の道路啓開支援センターや、自衛隊の物資輸送拠点



とぎ海街道

ころ柿の里しか

- ・農産物直売所営業中
- ・道の駅の温泉を町民に無料開放



あなみず

- ・国交省のコンテナトイレを設置 (~2/20)
- ・トイレの復旧に伴い、「ポケットパーク海岸棧敷のと七見」に移設

なかじまロマン峠

- ・奥能登に向かう拠点として活用



(3) 広がる「道の駅」の連携

3. 可動式コンテナの運用

- 近年、容易に移動でき機動的にスペースを確保できるコンテナが注目されており、「道の駅」においても活用事例が登場している
- こうしたコンテナは、平常時は地域活性化に活用しつつ、災害時には必要な物資や機能を被災地に迅速に運び活用することが可能であり、防災機能が求められている「道の駅」において運用することが考えられる

コンテナの活用事例



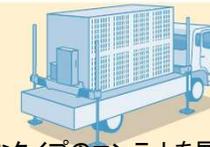
道の駅「猪苗代」高付加価値コンテナ設置実験

令和5年6月・11月に、医療・防災産業創生協議会の主催により、平常時・災害時の活用を想定した「高付加価値コンテナ」の設置を実証実験（各種コンテナ展示、歯科医師による口腔ケア、地元企業のアンテナショップ等）

クールコンテナ



ジャッキ付き多目的コンテナ



トレーラーハウス



様々なタイプのコンテナを展示・紹介



(来場者・実験参加者のコメント)

- 将来、無医地区が増え、巡回診療の時代が来ると思う
- 災害時に使う器具や薬品等が備蓄されていると、災害時の活用で有益
- 農家が多い地域であり、野菜の保管場所かつ移動販売車として使える
- 快適な避難所として活用されれば、積極的に避難を考えたい 等



1. 能登半島地震被災地での可動式コンテナ等の運用状況

	医療	トイレ	風呂	ランドリー	仮設住宅					不明	小計	構成比				
					仮設住宅	ボランティア	福祉避難所	休憩室等	ペット関連							
コンテナ	17	3	2	1						17	うち2	40	34.8%			
トレーラーハウス	0	うち1	29	0	1	30	うち2	4	1	うち2	3	7	0	うち36	75	65.2%
小計	17	32	2	2	30	4	1	3	7	17		115				
構成比	14.8%	27.8%	1.7%	1.7%	26.1%	3.5%	0.9%	2.6%	6.1%	14.8%						

※2/15 (木) 13時時点

合計 115台運用中

うち仮設住宅等：45台
(構成比39.1%)



- 避難所や住民が集まる場所で、風呂、トレーラーハウス、トイレなど、様々な可動式コンテナが活用されている
- 災害時に移動して現地支援が可能となる可動式コンテナの活用は、平時・災害時双方に資する取り組みとして、「道の駅」においても参考となる



ボイラーで
沸かして
送湯



ボイラーコンテナ
(七尾市崎山地区コミュニティーセンター)

コンテナの隣にテント式の風呂を設置



トレーラーハウス(志賀町富来支所)



コンテナトイレ(珠洲市宝立小中学校)



スマートフォンの
無料充電サービ
スを提供するほ
か、付属のトイレ
も無料開放して
いる

ソーラーハウスコンテナ(能登町内浦総合支所)

- 道の駅「ようか但馬蔵」(兵庫県養父市)で活用されていた、コンテナ型の移動式ランドリーを、養父市より石川県珠洲市へ移動して活用
- 養父市との協定に基づき、民間所有のコンテナを現地へ派遣
- 設置先は断水地域であるが、自衛隊と連携し河川より取水して稼働



【道の駅「ようか但馬蔵」での活用状況】



1/22 珠洲市上戸小学校へ向けて出発



養父市内の断水地区で設置

令和5年8月7日に道の駅「ようか但馬蔵」に設置し運用開始。その直後の令和5年8月に兵庫県養父市を襲った台風7号の影響で、養父市民約1300人が暮らす514世帯が一時断水した際に、移動式コインランドリーとして断水地区にて活動。